

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600719		
法人名	株式会社 ふるさとコミュニティ		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号 (電話) 0144-76-0351		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】 (20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 11月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10人 非常勤 7人 常勤換算 12.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	光熱水費18,000円 暖房費(10~4月)8,000円
敷金	有( )円・ <b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 <b>無</b>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	300円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	4名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	3名
要介護5	5名	要支援2	0名
年齢	平均 86歳	最低 72歳	最高 98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫仁会神谷病院 豊巻歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前面には、樹木豊かな緑地帯の遊歩道があり、木漏れ日を享受しながら、利用者は職員のさり気ない見守りを得て、ゆったりと散歩しています。ホーム内の人間関係も良好で、利用者第一のケアサービスのあり方に、利用者、家族からも高い評価と信頼が寄せられています。地域との繋がりを大切にしながら、利用者が穏やかで安らぎのある暮らしが送れるよう、最大限の支援を心がけているホームです。ケア理念の一つである「いつも 私たちが そばにいます」が、当ホームの全てを物語っているようです。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題に対しては、前向きな取り組みにより改善が見られましたが、理念の中に地域との関連性が謳われていない点、運営推進会議が継続されていない点、地域の協力を得ての夜間想定防災訓練などについては、早急に取り組みたいとの意向ですので、実施に向け期待します。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者がまとめ上げ、新しい気づきや改善点などは、今後の課題としています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>職員の離職による人手不足や、利用者の体調変化などが重なり、運営推進会議の継続性が見られませんが、今後、開催を予定していますので、取り組みに期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年4回、ユニットごとに「お便り」を発行し、ホームでの生活状態を伝えたり、来訪時や電話、手紙にて、利用者の心身の状態や暮らしぶりを細やかに説明し、家族の安心を得ています。家族からの要望などは速やかに検討し、サービスの質の向上に向けて取り組んでいます。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者は町内会役員を担い、積極的に行事の裏方として参加しています。利用者の高齢化により、全員参加は難しい現状ですが、ホームの前で子ども御輿を迎えたり、盆踊りに参加したり、ホームヘルパーの実習生の受け入れ、また、ボランティアの方々の訪問などで、地域との繋がりは深まっています。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、地域との繋がりも徐々に深まり、パンフレットの中に「地域の人たちと共に喜び、共に生きる」と記載されていますが、ホーム内に掲示されている理念の中には謳われていません。	○	地域との関連性を盛り込んだ理念を掲示する意向ですので、実現に期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ホーム独自の理念に加え、ユニットごとの理念の意義を理解し、各々が記載された理念を携帯しながらの日々の取り組みが、自ずと理念の実践に繋がっています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は町内会の役員を担い、積極的に行事の裏方として参加しています。利用者の高齢化により、全員参加は難しい現状ですが、ホームの前で子ども御輿を迎えたり、盆踊りに参加したり、ホームヘルパーの実習生の受け入れ、また、ボランティアの方々の訪問などで、地域との繋がりは深まっています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者がまとめ上げ、新しい気づきなどは今後の課題としています。前回の外部評価での改善事項も、出来る範囲から着手し、努力の成果が見られました。		

苫小牧市 グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目は平成19年6月に開催されましたが、その後は、職員の離職による人手不足や利用者の体調変化などが重なり、2回目の開催に至っていませんでしたが、早急に開催することを予定しています。	○	ホームの取り組み内容や、具体的改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得たりと、外部の方々の目を通し、サービスの質の確保・向上が図られて行くことを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは折に触れ、ホームの実情を伝え、課題解決のための助言をいただき、ケアサービスの質の向上に向けて取り組んでいます。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回、ユニットごとに「お便り」を発行し、ホームの生活状態などを伝えたり、来訪時や電話など、または手紙にて、利用者の心身の状態や暮らしぶりを細やかに説明し、家族の安心を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々の意見、要望を把握するために苦情箱を設置したり、来訪時や電話にて思いを伝えていただけるよう取り組んでいます。また、第三者の苦情受付機関を紹介しています。その中での課題は、速やかに検討し、サービスの質の向上に向けて取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	様々な理由により離職者が多く、職員の負担も大きい状態の中、利用者への影響を防ぐため、馴染みの職員で最大限の努力がなされており、現在は、働きやすい環境作りや、雇用条件の改善により職員の定着化が進み、利用者は落ち着いた生活を持っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修、実践者研修、グループホーム協議会研修会などに職員全員が積極的に参加し、運営者も、年間計画の中で職員のレベルアップに繋がる機会を確保しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、苫小牧グループホーム連絡会や、道南訪問看護師会による勉強会に参加し切磋琢磨しています。また、管理者の人的ネットワークにより、4カ所のほかの業者との交流を深め、サービスの質の向上に向けての取り組みが行なわれています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族の方々のホーム見学や、管理者の家庭訪問、病院訪問にて、情報収集した利用者の生活歴を、職員間で共有し、馴染みの関係が出来るまで、常に寄り添って安心を得られるよう取り組んでいます。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、人生の大先輩を尊敬し、生活して行く上での教えや助言、また、労りの言葉を受けたりと、家族のような関係が築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者が今日一日どのように過ごしたいか、これからどのように人生を過ごして行きたいかを、利用者の言動や表情から把握し、このことを常に念頭に置きながら、利用者の意向に沿ってケアサービスに取り組んでいます。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者、家族からの要望に加え、職員間でモニタリングやカンファレンスで何度も検討し、利用者にとって、安心と安全を第一に考えた内容になっています。また、介護記録も整備され、利用者、家族の安心に繋がっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎の見直しが行なわれていますが、心身の状態変化により、利用者、家族の要望を取り入れ、さらに、職員からの情報収集をもとに現状に合った介護計画の見直しがされています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は、原則、家族が行なっていますが協力医院への定期受診や急変時には、職員が通院介助をしています。また、花見や紅葉狩り、外食などの外出行事には、ホームの車やレンタカーを利用し、利用者、家族の要望に沿って支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の全面協力をいただき、定期受診や往診があり、利用者が以前に利用していたかかりつけ医の受診も行なわれ、適切な健康管理が配慮されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期に対しては、指針を作成し、利用契約時に同意書を得ています。状態変化が生じた場合は、ホームとして最大限の支援がなされています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者の指導の下、個人情報の取り扱いや、利用者の尊厳を損なうことがないように、職員全員が共有し、ケアサービスに取り組んでいます。面会簿もカード式になっており、プライバシーに十分配慮されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日常生活から、その日の思いを把握し、心穏やかに過ごせるよう支援がなされています。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き、ユニットごとに献立を作成しています。利用者の体調に合わせ、持てる力を活かし、買物や下ごしらえ、下膳、洗い物などを職員と一緒にこなしています。さり気ない食事介助の中、穏やかな食事風景となっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日の希望を受け、一週間に2～3回の入浴支援がなされています。入浴を拒む方や、意思表示のない方には、声かけにより、清潔感が保持される取り組みが行われています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に照らし合わせ、掃除機がけ、洗濯物たたみ、雑巾縫い、手芸、カラオケ、脳トレーニングなど、職員の深い見守りの中、楽しみごととして、張り合いのある生活となるよう支援されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じ、ホーム周辺の散歩や買物、ドライブなど、職員の同行により支援されています。天気の良い日は、ホーム前の樹木豊かな遊歩道の緑地帯で昼食を摂るなど、外出の機会が得られるよう配慮されています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため、20時以降は施錠していますが、日中は、鍵を掛けないケアサービスに取り組み、利用者が外出する場合は、職員が同行し、自由な暮らしの支援をしています。		

苫小牧市 グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、1月と9月に日中想定避難経路の確認や災害時の訓練を行なっていますが、利用者や地域住民の方々の参加は出来ていません。	○	利用者の安全を守るため、運営推進会議で、町内会に災害時の協力を要請したり、地震などの災害対策、夜間想定避難訓練を利用者を交えて行なうなどの取り組みを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーチェックは、協力病院の栄養士に相談し、水分量、食事摂取量は、管理表にて職員全員が共有しています。利用者の状態に応じ流動食、きざみ食などで適切な栄養バランスが保たれています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、空気清浄機や消臭剤などで換気や臭いに対応しています。季節の花を飾ったり、旬の野菜や果物で季節を感じる配慮がなされています。また、絵画や上質な調度品が配置され、安らぎの場を提供しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、インテリアなどを配置し、思い出を大切にしながら、安心した生活が送れるよう支援しています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。